

Naohisa FUKASAWA

太田市議会議員

The News of Campaign Club 2012.

# 深沢直久 Go&Do

【後援会事務所】

群馬県太田市寺井町669番地 〒373-0052  
TEL(0276)-37-0716 FAX(0276)-37-0715

E-mail address : info@fukasawa.net  
HP : http://www.fukasawa.net

後援会資料



QR CODE

## ご挨拶

皆様、いつも大変お世話になります。昨年の選挙以来、1年がたちます。

震災から与えられた教訓が、意見として出され、これから行政の随所にあらわれてきます。総評して、改めてご近所の大事さ、絆の大切さが、認識された1年となりました。

平成23年度、議員は議会運営委員、教育福祉委員、議会改革研究会委員をさせていただきました。アンケートなどを通して、議員と皆様との結びつき、また、活動報告を、意見聴取を、どのようにお知らせしていくか。など多くのご意見をいただいたそうです。議員定数も議論の末、34から30へと削減を決めました。

※今回の活動報告をさせていただきます。これからもどうぞ引き続きご支援を賜ります様お願いいたします。

※住所・氏名は、ここ数回の後援会入会および紹介者を整理して使用いたしました。名前のミスやお亡くなりになった方に届く場合もあります。その時は記載を直しますので、ご一報ください。

◎住所変更等のご連絡は、FAXで頂けると大変助かります。ご協力をお願いします。

深沢直久後援会

## 平成24年度の予算が決まりました

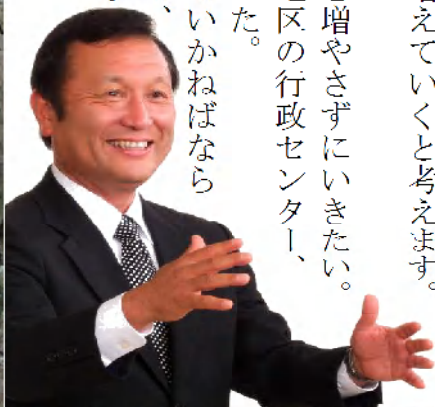
今年度の予算が約751億円で決まりました。これを賄う歳入のうち、市税44%、330億円。343億円が交付金や入金です。77億が市債という借金になります。歳出で主だったものは、11.8%の総務費88億円。33.3%民生費250億円。14.4%の教育費108億円。11.4%公債費85億円ということになります。日本全体の景気の回復も、はかばかしくなく、このままいくと太田市は国からできる借金の枠（合併特例債、臨時財政対策債）も数年後には底をつきます。低い予算付けになることも予想されます。

（数字は分かりやすいように大きめに書きました）

太田市は「返済金額を超えない借金」を目標に財政を組んできました。しかしこれは、臨時財政対策債や、合併特例債を入れておりません。これを入れると借金は増えていきます。ここ数年にわたり、景気対策を含め太田市予算は40億円ずつ多いと私は思っています。

国はこれを必ず入金をすると言っていますが、国自体が予算の半分を国債という借金で賄っているため、太田市の借金は結局年々、増えていくということになります。これがどのくらい補填されて帰ってくるかが問題で、後年度負担は残念ながら増えていくと考えます。

これからは、予算を組むにもこの市債を増やさずにいきたい。この市債は、救急病院や学校の耐震、各地区の行政センター、児童館、など地域整備等々に使ってきました。今後はあまり大きなものは、少し我慢していかねばならなくなります。作る場合は維持管理費まで、考えて施設作りをしていかねばならないと思います。



## 太田の日本的歴史考察 <歴史は未来への方程式③>

地域連携の源流はここにあり。まとまれば日本も変わる!?



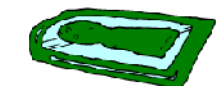
縄文時代（-16500年~-1000年頃）、弥生時代（-1000年~-300年頃）の遺跡も数多く出ているということは、古くからここには人が住んでいたということがわかります。

（伝説の中で）弥生時代中期（-660年）第1代神武天皇より日本の天皇制が始まり、弥生後期の始まり頃（-97年）第10代崇神天皇。卑弥呼（175年~-248年）の時代が第14代・15代天皇の頃と伝えられています。第16代仁徳天皇から始まる古墳時代（350年~-700年頃）には、ここ太田の地は既に400年の前から王族の勢力が、ここを治めていました。（毛野国）卓越した巨大勢力を持っていたことは、天神山古墳（その建設時は450年前後、全国で26番目）の大きさでわかります。もちろん東国では1番で、その創建時の100年間では日本で一番大きい規模を誇っています。日本一繁栄していたのではないかと想像ができます。



この頃ここを毛野国と呼んでいました。大きい範囲の総称でした。米の取れる国という意味です。450年頃、（上）毛野君氏（かみつけぬのきみ）小熊（おぐま）という君が居ました。この人物は、（伝）崇神天皇（第10代天皇-97年から-30）の皇子で、豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）<48年、上毛野君・下毛野君の祖で東国の統治に向かった人物>の500年後の末裔といわれています。天神山古墳に埋葬されている人ではないかと思われる人物です。大きい国、毛野国の最大権力者であったようで、毛野国は400年くらいまでは巨大地域統治がされて、その後は同族の中で力を持ちながら連合統治を行っていました。

450年頃、上武蔵野国と下武蔵野国（同系の民）の内紛があり、下武蔵野国は異系の民ではあるが、その時の統治者である連合勢力の国である上毛野国の上に応援を頼み、上武蔵野国は朝廷に応援を頼むという形となり、代理戦争という形となりました。朝廷側が勝ち、ここも朝廷の支配に入ります。その後は、上毛野国、特に太田市の近隣には大型の古墳は作られず、武蔵野国に大型の前方後円墳が作られるのを見ると朝廷により勢力が分散させられて、勢力は武蔵野国（埼玉古墳群）のほうに南下したり、上毛野国も太田市周辺から前橋市・高崎市周辺と西進したりと勢力が分散移動していきました。東国全域に広がっていくきっかけになったと思われます。



勢力が分散する前、その中心に位置しているのが天神山古墳で、造られたのが、5世紀半ばということは450年頃と考えられます。ここに葬られている主（小熊）が毛野国の最後の首長と考えられます。最後にしてこのような巨大古墳は、勢力がなくなってからでは造営されません。つまりこの時期には最大の権力と勢力がありながら、突如2地区に分断されたと考えられます。周辺の事実から考えると、朝廷との戦いで負けたのを契機に朝廷から分断され、同族同士で、牽制をしようように両者を監視下に置き、東国に巨大勢力を発生させないようにしたのではないかと。また女体山古墳も同じ頃の造営で、両者は緊密な関係があること。2つがこの時期に出来るということは、その勢力の大きさを想像できるが、女体山は小熊の妻なのか。いずれにしても、毛野国の中心がここ太田の地に在ったことは間違いありません。 <次号に続く>



## 平成24年3月議会 総括質疑

### Q1. 藪塚地区の都市計画について はっきりとした方針を!まだ3年ある!

合併後10年を口途に区域区分線引きを、一本化をしなければということで計画をされていると思います。現在までの進みはどのようになっているのかお聞きしたい。また、今後これからの進みはどのように計画をされているものか、お聞きしたい。

#### A. 都市政策部長・市長の返答

部長からの解答は、はっきりとしたプログラムの提出は、残念ながらなかった。市長からの解答では、「10年まであと何年か?」と聞いたことから推測すると、この都市計画についてはあまり率先して進めるといふ気持ちは見て取れない解答であった。やらなければならないという認識は持っているが期限にはこだわらないという意見であった。

### Q2. 人口減少地区の居住環境について 他と違う推進策を!!

現在の法令化では市街化区域と市街化調整地区で調整されております。その中、調整地区内、古くからの既存集落内で人口減少地区が発生し始め、コミュニティーが形成出来なくなってきました。人口減少地区について住宅建設認可の運用緩和が出来ないかをお聞きします。また、モデル地区でも良いので人口減少地区に自然と共生しながらも人口増加に寄与する住環境づくりが出来ないか考え方をお聞きします。

#### A. 都市政策部長・市長の返答

部長からの解答は毎年2百数十件の農転をしているので緩和策に寄与しているという解答であったが、それはほとんどが一部地域の申請であり、それ以外の市街地調整区域の既存集落について聞きたかったがそれについての回答はなかった。市長からの解答は農村地からコミュニティーがなくなっているのは太田に限ったことではなく、日本全体で起こっていること、これは国の政策によることであって地方自治体に権限が降りてきていないからその地方の的確な判断が出来ていない。国の責任でもあるという答弁であった。

### Q3. 指定管理者制度について 1年に1度、目を通すのは当然である!

指定管理者の件数が多くなってきています。現在、どのくらいの件数になっているのか。またその費用はどのくらいかをお聞きします。現在おおむね6年目を過ぎ、3年の管理期間3ラウンド目となりました。太田市は、指定管理者の管理体制はどのようにされているのかをお聞きします。また、評価と検証をする委員会や組織はどのようになっているかをお聞きします。委員会の働き、どのような構成人数で、どのような審査をされているか。

#### A. 総務部長・市長の返答

- ・現在は、97施設、指定管理者32団体。公募数8、非公募数89施設。費用は、平成22年で13億6千万円。
- ・外部有識者4名を含む7名の指定管理者候補者審査委員会が選定。監視委員会なし。

審査や検証については、部長からの答弁はこれと言った明確な方法論につながる答弁は示されなかった。市長からの答弁は、第三者委員会を作るより議員も参加してその検証をしていく方法もあり、その情報も公開していったよいのではないかと。即座に議長と連絡を取り議員が審査や検証出来る制度の確立のために動くことを申し込み、議長預かりとした。これからは、指定管理者の審査委員会や検証委員会に議員も関与し、検証や現場調査で報告者に対しても聞くことが出来るシステムを作り出す。そのような動きを議会として示すことが必要と考える。

## 希望ある未来に!

今の自分を認め、変化を恐れず  
自分から考え、経験からの知恵で  
何をすべきか結論を出していく



### プロフィール

ふか さわ なお ひさ  
**深沢直久**

生年月日 昭和30年1月21日生

■学歴 太田高校卒業  
東農大卒業



### 主な議員役歴

議会運営委員長  
総務企画委員長  
厚生文教委員長  
産業環境委員長  
市民経済委員長  
渡良瀬公害特別副委員長  
合併調査特別副委員長



## 私はこう考えます!

### ●市民会館の前に…

市民会館は急ぐ必要はない。その前に都市基盤整備が必要。現在の候補地(ベイシアの隣)の所は、昔から水の流れの集まる場所で、地盤の弱いところ、地下水脈のあるところ。ここには調整池機能が必要だと考えます。お金をかけずに調整機能を持たせるとするならば、田んぼの利用を考えたい。畔を30センチ高くすれば出来る事があります。

### ●東日本のがれきを受け入れられない理由

(ライフラインの都市基盤整備)

焼却炉が古く、壊れてしまう可能性がある為、受け入れられないとの判断。数年後には新焼却炉を造らなければならない為、基盤整備の一環として、優先させる必要がある。

### ●住宅団地の再編

街中や住宅団地に人が少なくなりました。少子化の時代、住宅団地を造る時代ではありません。

既にあるものの再利用や、貸したり借りたりすることなどを含めて市営住宅も福祉住宅のような高齢者仕様の部屋を作ったり、一人暮らしの方の安全に目が行き届くようなシステムが必要です。子育て支援居住環境作りに、目を向けていくようなことも必要になっています。少しのハード面の充実と多くのソフト面の支援に予算をおきかえていかなければなりません。

### ●太陽光発電

国は原発を続けるのか、やめるのか決める時が来ます。電気料金を上げて存続というのは企業的な考えだと考えます。やめるという国民も多くいると思います。やめるならば、国民も腹を決める必要があります。国民は国に何をすべきかを考え、東電を整理しながら、東電エリアの住民に、太陽光発電電力の供給に一人20万から30万くらいだしてもらい、どこかにそのパネルを設置して、毎日40円で電気を売っていく。(ドイツ型)

### ●大阪市 橋本市長の大阪都構想

人口の多いところのみができること。地方では連合体構想となる。同一地域で特にライフライン(必要施設)はお互いに使いこをする。それぞれの自治体に施設は全部必要はない。その代りもう、合併をするということは少なくなるであろう。それぞれの地域の自治をしながら財政負担を少なくしていかなければなりません。